

NO.641 荒島岳・経ヶ岳(福井県)本部合同

期 日:6月12日～13日(夜行1泊)

参加者:支部3名、本部30名

費 用:14000円

コース: 6月11日 大宮 21:00 一用賀 22:00 一福井へ
6月12日 勝原スキー場 5:30 ーシャクナゲ平 7:50 ー 9:00 荒島岳 9:30
ー 10:15 シャクナゲ平 11:15 ー 13:00 勝原スキー場
6月13日 奥越高原青少年自然の家 4:10 ー保月山 6:00 ー 7:50 経ヶ岳 8:25
ー保月山 9:45 ー 11:00 奥越高原青少年自然の家

12日は、百名山の荒島岳へ。少々寂しい感じのスキー場から登り始める。リーダーの方針により、今回の山行では、参加者はそれぞれ自分のペースで、速、中庸、遅のグループに分かれて山頂へ向かうこととなった。シャクナゲ平への道は、ブナ林の中に歩きやすい道が続き、思いがけないほどの短時間で到着する。が、その名のおりシャクナゲ林かと思いきや、まるでその影もない。その後は、高くなった日差しに消耗しつつも、足元のイワカガミに励まされながら、全員元気よく1等三角点の頂上へとたどり着いた。山頂は、以前にあったという反射板が撤去され、広い平地が広がっていた。また、頂上からの下山(しもやま)ルートは現在通行禁止となっており、ロープで遮断されていた。山頂でしばしの休息ののち、順次下山を開始したが、「速」グループは、小荒島岳への往復を加えた後、全員でシャクナゲ平での昼食となった。既に気温は急上昇しており、登ってくる他パーティの人たちは、かなり疲労している様子だった。そして、このまま宿に向かうには、早すぎる時刻に無事にスキー場に降り立った。バスにて、買出しのために大野市内へ向かうが、見つけたコンビニからは、優雅に裾野を引いた荒島岳が、

三角形に尖った頂上をもたげて、なるほど百名山の風格ありきと思わされた。

13日は、午後からの天候悪化が予想されたため、夜も明けきらぬうちに行動を開始した。初めは曇っていた空も、徐々に青空が顔を出し、頂上付近に雲がかかっている荒島岳も見えてきた。尾根上の登山道で順調に高度を稼ぎ、釈氏ヶ岳に登ると一気に展望が開け、目指す経ヶ岳の山頂も見えてきた。頂上へのルートは、爆裂火口の縁といわれる稜線上の笹原に伸びており、何とも爽快な尾根歩きであった。頂上からは、昨日は見えなかった白山が、大量の残雪を光らせて、うっすら見えており、天気予報とは裏腹の上天気に、メンバー全員感激の一時を過ごした。しかし、今日は東京まで帰らねばならない。名残惜しい山頂を辞し、もと来た道を駆け下りた。

今回の宿、奥越高原青少年自然の家では、管理者の方の大変親切な、そして臨機応変な対応で、理想的な登山行程を実現できた。あらためて感謝の念を表したい。(O記)



荒島岳頂上にて